

環境省エネルギー特別会計補助事業

平成二十一年度 地域センター普及啓発・広報事業

地方自治体主催イベント等を活用した草の根的普及啓発・広報事業

活動報告書

平成 21 年度 3 月

財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
(ストップ温暖化センターみやぎ)

目次

1. 事業の目的、内容及び効果.....	1
2. 事業 自治体イベントの参加及び自治体イベントへの協力（講師招聘など）.....	3
2-1. 地域イベントへの参加実績.....	3
2-2. ストップ温暖化センターみやぎが参加及び講師招聘を行った各イベントの報告.....	3
(1) 登米市「市民生き生き健康フェア」出展報告.....	3
(2) 「遊ぼう・学ぼう・体験しよう！地球温暖化防止」イベント出展報告.....	5
(3) コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーン報告.....	7
(4) 大崎市環境フェア出展報告.....	7
(5) りふ環境まるごとフェア報告.....	9
(6) 角田市環境フォーラム報告.....	10
3. 事業 温暖化防止キャラバン隊（センター10周年企画）.....	11
3-1. 開催校一覧.....	11
3-2. 各回の報告.....	11
(1) 角田市立北郷小学校.....	11
(2) 気仙沼市立鹿折中学校.....	12
(3) 大崎市立田尻中学校.....	12
(4) 大崎市立池月小学校.....	13
(5) 仙台市台原中学校.....	13
(6) 大崎市立大貫小学校.....	14
(7) 仙台市立北六番丁小学校.....	15
(8) 女川第四小学校、出島中学校.....	15
(9) 尚絅学院大学.....	16
(10) 東北生活文化大学高等学校.....	16
3-3. アンケート結果.....	17
3-3-a. 方法など.....	17
3-3-b. 講演前後の意識変化.....	17
3-3-c. 今後新たに実行したい環境配慮型行動.....	18
3-3-d. 感想（誤字・脱字修正、コメントの分類は事務局。その他は原文のまま）.....	18
3-4. アンケート用紙.....	22
3-5. 台原中学校アンケート結果.....	24
3-5-a 方法など.....	24
3-5-b. 講演前後の意識変化.....	24
3-5-c. 今後新たに実行したい環境配慮型行動.....	25
3-6. アンケート用紙.....	29
4. 事業 温暖化防止啓発写真展.....	31
4-1. 概要.....	31
4-2. アンケート結果.....	32
4-2-a. 方法.....	32
4-2-b. 結果.....	32

4-3. アンケート用紙.....	40
5. 事業 ストップ温暖化センターみやぎパンフレット作成.....	41
5-1. 配布先.....	41
6. 事業 温暖化防止啓発コンサート(Date fm との共催)	41
6-1. 実施概要.....	41
6-2. 総括.....	41
6-3. アンケート回答（遠藤氏のトーク及び写真展に関する記述のみ抜粋）:	42

1. 事業の目的、内容及び効果

<p>事業の目的</p>	<p>京都議定書の目標に向けて、地方公共団体・市民が一体となり、温暖化防止対策に取り組むことが重要である。本事業では、以下の目的のもとに各事業を実施した。</p> <p>県内各地域において温暖化に関連した分野の講師の講演を聞く機会を作り、温暖化に関する知識を深める。また、家庭の省エネの普及啓発等、地域での取り組みを効果的に推進する。</p> <p>子どもを対象として温暖化に係る基調講演を行い、温暖化は身近な問題であることを感じさせるとともに温暖化防止活動の実践を促す。</p> <p>温暖化に対する関心を引き出し、温暖化防止行動のきっかけ作りをする。</p> <p>ストップ温暖化センターみやぎ及び地球温暖化対策等に関するパンフレットを作成し、教育機関や自治体へ配布することにより、センター及び推進員の知名度を高め、環境教育や普及啓発の機会の増加を図る。</p> <p>温暖化に対する関心を引き出し、温暖化防止のためのライフスタイルを提案し、実践を促す。</p>												
<p>事業の内容</p>	<p>自治体イベントの参加及び自治体イベントへの協力（基調講演講師招聘など）【要綱ア、イ】</p> <p>【内容】ペットボトル使用抑制のためのオリジナルタンブラー（持ち歩きできる蓋付きカップ）作り、省エネ型電球比較装置などの体験型ブースを出展し、家庭における省エネを啓発した。また、専門家による温暖化に関連する基調講演を行った。</p> <p>【方法】各自治体にアンケートをとり、ブース出展の可否と基調講演の講師招聘の希望を調査し8件の地域イベントでブース出展を行った。他1件では講師招聘を行い、講師は温暖化に関連する分野の専門家（気象予報士）を招いた。</p> <p>温暖化防止キャラバン隊（センター10周年企画）共催【要綱ア】</p> <p>【内容】NPO 法人 Tuvalu Overview 代表理事 / 写真家の遠藤秀一氏を招き、県内の小中高生を対象に、ツバルの温暖化の現状とそれによって脅かされつつある現地の人々の生活に関する話題及び身近にできる温暖化対策に関する基調講演を実施した。</p> <p>【方法】県内の小中高校にアンケートを実施して実施希望校を募り、そのうちの9校で講演を実施したほか、大学1校で講演を行った（9月～2月）。</p> <p>温暖化防止啓発写真展【要綱ア】</p> <p>【内容】遠藤秀一氏（事業と同じ）の写真展を行った。写真内容は、ツバルの風景と海面上昇によって削られた砂浜などの被害状況、温暖化によって脅かされる人々の生活に関する写真等。また、温暖化に関する知識や身近な温暖化防止行動を紹介するブースを併設した。</p> <p>【方法】せんだいメディアテークオープンスクエアにて開催した（2月5日（準備）、6・7日）。</p> <p>ストップ温暖化センターみやぎパンフレット作成【要綱ア、ウ】</p> <p>【内容】ストップ温暖化センター及び温暖化対策等に関するパンフレットを作成し、県内の学校、自治体、公民館等に配布した。</p> <p>【方法】パンフレットを作成（6月）し、以下に配布した。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>小中高校（780校×各1部）</td> <td style="text-align: right;">780部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公民館・市民センター（263館×各10部）</td> <td style="text-align: right;">2630部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自治体（42市町村×各10部）</td> <td style="text-align: right;">420部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務局設置</td> <td style="text-align: right;">170部</td> <td style="text-align: right;">合計 4000部</td> </tr> </table>	小中高校（780校×各1部）	780部		公民館・市民センター（263館×各10部）	2630部		自治体（42市町村×各10部）	420部		事務局設置	170部	合計 4000部
小中高校（780校×各1部）	780部												
公民館・市民センター（263館×各10部）	2630部												
自治体（42市町村×各10部）	420部												
事務局設置	170部	合計 4000部											

	<p>温暖化防止啓発コンサート(Date fm との共催)【要綱ア】</p> <p>【内容】Date fm が開催する環境保護を訴えるコンサートにおいて、NPO 法人 Tuvalu Overview 代表理事 / 写真家の遠藤秀一氏をトークショーのゲストとして招き、温暖化防止を訴えた。また、会場内で同氏の写真展を行った。内容は、ツバルの風景と海面上昇によって削られた砂浜などの被害状況、温暖化によって脅かされる人々の生活に関する写真等である。</p> <p>【方法】ZEPP SENDAI にて行われるコンサートの時間内でトークショーを行った。また、会場ロビーにて写真展を併催した。</p>
事業の効果	<p>従来のシンポジウム形式の普及啓発・広報は環境に関心のある人しか集まらないが、町民祭りなどのイベントは関心のない層にも広報でき、参加型のブースを出展することで温暖化に対する関心を引き出すことができた。自治体が行う町民祭り等のイベントにおいて講師招聘などの協力を行うことで、県内各地域で専門的で最新の温暖化に関する情報提供を行う事ができた。</p> <p>温暖化が児童 / 生徒にとって身近な問題であることを認識させ、温暖化防止活動の実践を推進することができた。</p> <p>温暖化の影響が現れている地域に関する写真展を行うことにより、温暖化への関心を引き出し、温暖化防止行動への足がかりとすることができた。</p> <p>ストップ温暖化センターみやぎ及び地球温暖化対策等に関するパンフレットの配布によってセンター及び推進員の知名度を向上させることで、環境学習や普及啓発の必要性の認知度を高めることができた。</p> <p>コンサートの主な来場者である 20 ~ 30 代の若年層に対して、温暖化の現状について情報提供を行うとともに、身近な温暖化対策について啓発を行うことができた。</p> <p>各事業ごとの効果については、現実的かつ実測可能な方法で測定し、その結果を実績報告書に記載するとともに、ホームページで公表した。</p>

2. 事業 自治体イベントの参加及び自治体イベントへの協力（講師招聘など）

2-1. 地域イベントへの参加実績

県内 8 箇所でイベントに参加し、1 箇所で開催を行った。参加の形態は、センターによるブース出展、推進員によるブース出展、講師招聘協力、グッズ貸し出しがある。なお、下表には学習会・講演会は含まれていない。

番号	日にち	イベント名、自治体名（主催者名） 開催場所	内容 参加の方法】	参加者
1	2009 年 7/4(土)	第 4 回市民活き行き健康フェスティバル 【登米市】 登米市迫体育館	マイタンブラー作り 【センターが参加】	廣重事務局員 江刺家事務局員
2	7/5 (日)	エコ・フェスタ	グッズ貸し出し 【推進員が参加】	菊地ひろ子推進員
3	7/26 (日)	「遊ぼう・学ぼう・体験しよう! 地球温暖化防止」 【せんだい泉エフエム放送株式会社】 イオン仙台泉大沢ショッピングセンター	マイタンブラー作り パネル・タペストリー展示等 【センターが参加】	井上センター 統括 廣重事務局員 江刺家事務局員 小山田陽奈氏
4	9/27 (日)	コスモアースコンシャス グリーンキャンペーン 深沼海水浴場 【Date fm】	マイタンブラー作り 【センターが参加】	井上センター 統括 江刺家事務局員 神林満男氏
5	10/10 (土)	環境フェア 【大崎市】 大崎市民会館	マイタンブラー作り 【センターが参加】	井上センター 統括 廣重事務局員 江刺家事務局員
6	10/25 (日)	「環境まるごとフェア 【利府町】 町民交流館及び町民広場	基調講演 講師招聘 【講師招聘】	廣重事務局員 江刺家事務局員
7	10/31,11/1 (土日)	加美町環境フェア 【加美町】 陶芸の里スポーツ公園	グッズ貸し出し 【推進員が参加】	松川敏推進員 菅原民四郎推進員
8	2010 年 2/6 (土)	環境広場もったいないの集い 【柴田町】 柴田町槻木生涯学習センター	グッズ貸し出し 【グッズ貸し出し】	なし
9	2/27 (土)	環境フォーラム 【角田市】 角田市市民センター大ホール	パネル展示 【センターが参加】	江刺家事務局員

2-2. ストップ温暖化センターみやぎが参加及び講師招聘を行った各イベントの報告

(1) 登米市「市民活き生き健康フェア」出展報告

日時：7/4（土）9:30～15:30

場所：登米市迫体育館

内容：マイタンブラー作り

CO₂削減量（見込み）：1922.4kg-CO₂/年

【内訳】 ・タンブラー使用によるペットボトル使用削減 284.7kg-CO₂/年

（6g-CO₂/日×365日×130名。環境省チームマイナス6%ホームページより）

・家庭でできる省エネ 1637.7kg-CO₂/年

（タンブラー作成参加者にアンケートを実施。一人複数回答可。詳細は以下の表を参照。

省エネルギーセンター発行家庭の省エネ大辞典より）

行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)	行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)
冷蔵庫は整理整頓し、物を詰めすぎない	18.0	11	198.0	電球型蛍光ランプに取り替える	34.4	4	137.6
冷房は 28 度に設定する	12.4	4	49.6	エアコンのフィルターを月に 1 回掃除する	13.1	2	26.2
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する	13.9	5	69.5	電気ポットを長時間掃除しない時はプラグを抜く	44.1	4	176.4
食器を洗うときは水温を低く設定する	20.5	5	102.5	ファンヒーターは必要な時だけつける	31.0	7	217.0
パソコンをつければなしにしたまま他の用事をしない	12.9	5	64.5	洗濯物はまとめて洗いする	2.4	9	21.6
ガスコンロの炎は鍋底からはみ出さないようにする	5.5	7	38.5	掃除は部屋を片付けてからする	2.2	6	13.2
入浴は家族で間隔をあけずにする。	88.9	5	444.5	テレビをつければなしにしたまま他の用事をしない	13.1	6	78.6

総括：

マイタンブラー作りは今回初の企画であったが、タンブラー作成の目新しさから注目度が高く、席(10名程度)がいっぱいで参加できなかった方もいたほどである。来場者に加え、「他のブース出展者からも関心が寄せられ、好評であった」と後日登米市職員より伺った。

作成には一人当たりおよそ 30 分弱の時間を要する。スタッフの作業は、スタッフの作業は台紙の切抜きやタンブラーへのセット、タンブラー使用の意義の説明となる。

タンブラーの使用は、ペットボトルゴミ削減や自分で飲み物を作って入れられるため経済的であることなどメリットがわかりやすく、呼び込みの際やタンブラーについて来場者に話をすると、特に主婦層に反応がよい。実用性から、今回使用したタンブラーの他にどんなものがあるか、どこで買えるかといった質問も数件あった。また、絵が苦手で足踏みする方にも、「差し上げることはできないが、自宅で写真や絵、布などを使って好きなデザインを作れる」と言うことで参加いただけた。

タンブラー自体は知名度が高くなく、今後タンブラー作りを展開していくことは有力な啓発になると思われる。



入り口付近で往来する人が多かったため、タンブラー使用の啓発やセンターの広報を行った

作成時の様子

タンブラー完成時に、使用の意義について説明

(2) 「遊ぼう・学ぼう・体験しよう！地球温暖化防止」イベント出展報告

日時：7/26（日）11:00～16:00

場所：イオン泉大沢ショッピングセンターイベントスペース

内容：マイタンブラー作り、環境クイズラリー、環境学習教材体験

CO₂削減量（見込み）：571.9kg-CO₂/年

【内訳】

ペットボトル使用削減 146.7kg-CO₂/年

（6g-CO₂/日×365日×67名。環境省チームマイナス6%ホームページより）

家庭でできる省エネ 425.2 kg-CO₂/年

（タンブラー作成参加者にアンケートを実施。一人複数回答可。詳細は以下の表を参照。省エネルギーセンター発行家庭の省エネ大辞典より）

行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)	行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)
冷蔵庫は整理整頓し、物を詰めすぎない	18.0	3	54	電球型蛍光灯ランプに取り替える	34.4	0	0
冷房は28度に設定する	12.4	3	37.2	エアコンのフィルターを月に1回掃除する	13.1	2	26.2
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する	13.9	2	27.8	電気ポットを長時間掃除しない時はプラグを抜く	44.1	0	0
食器を洗うときは水温を低く設定する	20.5	2	41	ファンヒーターは必要な時だけつける	31.0	0	0
パソコンをつけっぱなしにしたまま他の用事をしない	12.9	2	25.8	洗濯物はまとめて洗う	2.4	2	4.8
ガスコンロの炎は鍋底からはみ出さないようにする	5.5	0	0	掃除は部屋を片付けてからする	2.2	2	4.4
入浴は家族で間隔をあけずにする。	88.9	2	177.8	テレビをつけっぱなしにしたまま他の用事をしない	13.1	2	26.2

総括：

マイタンブラー作り

参加者はタンブラー作りを楽しんでいた様子が伺えた。保護者にタンブラー使用の意義を説明すると共感・納得の声が聞かれ、環境配慮型行動を実践する一つのきっかけとなったと思われる。

しかし、150個のタンブラーを用意したが、参加者は67名と予想を大幅に下回る数であった。幼稚園から小学生の子ども自体が少なかったことは要因の一つとして考えられるが、それ以外の要因として以下の事柄が考えられる。これらを踏まえ、次回タンブラー作りを行う際に改善をする。

原因	対策
会場が奥に広く、気軽に入りづらい	入り口付近を開放的にする。目を引く展示（タペストリー等）を設置する。
タンブラー及びタンブラー作りが何かわからないため、興味が湧かない	タンブラーの説明、マイタンブラー作りの方法の説明を掲示する
イベントのタイトルが固く、敬遠された	「地球温暖化防止」ではなく、「エコ」など浸透して

	おり軽い響きの言葉とする。
24 時間 TV の募金 100 円以上が条件となっており、受付を設けたことで気軽に入りづらい雰囲気となった	募金の依頼はタンブラー作成後にし、金額は任意とする。
絵を描くことに抵抗がある	・著作権フリーのイラストや写真の切抜き、塗り絵を用意する。 ・家で自由にカスタマイズできる旨を伝える

環境クイズラリー

ショッピングセンター内 1 階 5 箇所・2 階 5 箇所の計 10 箇所のクイズに答えることで、点数に関わらず抽選に参加できるクイズラリーを実施した。(抽選参加者：62 名)

見栄えのある抽選にも関わらず参加者はまばらであった。広いショッピングセンター内 10 箇所を回らなければならないことがまず敬遠されていたため、設置場所については配慮が必要であった。(実際に参加すると 20 分程度かかっていた。)また、参加者の声としては、クイズが難しいことや、場所が分かりにくいとの声もあった。ただし、クイズの答えについては、大人ほど驚きをもって捉えていた方が多く、日頃たくさんのエネルギーを使っているのだと訴えかけることができた。環境とのつながりのある景品がそろえられれば、さらに効果は高まると思われる。

環境学習教材体験

手回し発電機やエネルギーバッグは反応が良く、子どもも保護者も楽しんでいった。ただし、小学生以上では手回し発電機を使って自分で発電することができるため、子どもが楽しんで完結してしまうことがある。ここから保護者にも啓発を行うために、流れで保護者にも体験してもらい、ワットアワーマーター型電球比較装置を紹介し、省エネ型電球の買い替え促進をするという流れを作ることが必要である。

今回、「未来は変えられる」を壁に展示したが、スタッフが常駐して説明できる体制でない場合、一見しただけでは何を示しているものかわからないため、地域イベントでは不適と思われる。



上段左：会場
上段右：マイタンブラー作り
下段左：環境学習教材体験
下段右：環境クイズラリー



(3) コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーン報告

日時：9/27（日）9:30～14:00

場所：深沼海水浴場

出演：片岡晴子氏、JORI 氏、名護ひと美氏

内容： ゴミ拾い

エコトーク

オリジナルタンブラー作り

CO₂ 排出削減量(見込み)：ペットボトル使用削減 876.0kg-CO₂/年

(6g-CO₂/日×365日×400名。環境省チームマイナス6%ホームページより)

総括：

ゴミ拾い後のエコトークでは、MELON の紹介、タンブラー使用の意義、オリジナルタンブラーの作り方について話をした。また、タンブラーを使用することのメリット(経済的など)や飲み物のレシピを紹介した資料を配布した。

タンブラー作りでは募集時に何か使用したいものがあれば持参するようアナウンスをしていたため、参加者の中には個人的にシールなどを持ってきていた人も多かった。Date fm のホームページのブログには、「早速使用してみた」とのコメントがあり、普及啓発から行動につながる有用なツールであることがわかった。

放送は 10/3(土)9:00～10:00 の枠内。



約 600 名がゴミ拾いに参加。
うち 400 名がタンブラー作り
を行った。



タンブラー使用に関する
トーク



完成したタンブラー

(4) 大崎市環境フェア出展報告

日時：10/10(土)10:00～15:00

場所：大崎市民会館

対象：大崎市民 100 名(小学生の親子連れや中高年が主)

内容：タンブラー作り

隣のスペースで行っていた紙漉きを共同で、タンブラーの台紙を紙漉きした紙で作成した。

CO₂ 削減量(見込み)：1895.0 kg-CO₂/年

【内訳】

ペットボトル使用削減 219.0 kg-CO₂/年

(6g-CO₂/日×365日×100名。環境省チームマイナス6%ホームページより)

家庭でできる省エネ 1676.0kg-CO₂/年

(タンブラー作成参加者にアンケートを実施。一人複数回答可。詳細は以下の表を参照。省エネルギーセンター発行家庭の省エネ大辞典より)

行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)	行動	削減量 (kg-CO ₂ /年)	人数 (名)	合計 (kg-CO ₂ /年)
冷蔵庫は整理整頓し、物を詰めすぎない	18.0	8	144.0	電球型蛍光ランプに取り替える	34.4	3	103.2
冷房は28度に設定する	12.4	3	37.2	エアコンのフィルターを月に1回掃除する	13.1	1	13.1
野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する	13.9	3	41.7	電気ポットを長時間掃除しない時はプラグを抜く	44.1	6	264.6
食器を洗うときは水温を低く設定する	20.5	3	61.5	ファンヒーターは必要な時だけつける	31.0	6	186.0
パソコンをつけっぱなしにしたまま他の用事をしない	12.9	5	64.5	洗濯物はまとめ洗いする	2.4	10	24.0
ガスコンロの炎は鍋底からはみ出さないようにする	5.5	8	44	掃除は部屋を片付けてからする	2.2	2	4.4
入浴は家族で間隔をあけずにする。	88.9	7	622.3	テレビをつけっぱなしにしたまま他の用事をしない	13.1	5	65.5

総括：

開始時から人が絶えず、人が集まることによってさらに興味を持った人が寄ってくるという波及効果もあった。ただし、タンブラーが何かをよく知らないまま参加する人もいたので、どういったものなのか、それによってどんな効果があるかを説明し、啓発から実践に促す工夫が求められる。

また、タンブラー作りを楽しんだ人は、アンケートの協力を依頼するとすんなりと受け入れてくれることが多く、省エネ普及啓発のきっかけ作りにもなった。今後はよりまとまりのある内容とするために、消費をテーマにしたアンケートを作成するのとも一案であると思われる。

タンブラー作りをこれまでに4回行い、いずれも好評を博しているため、次年度もブース出展においては有効な方法だと思われる。



タンブラー作成中



完成したタンブラー

(5) りふ環境まるごとフェア報告

日時：10/25（日）9:30～14:00

場所：町民交流館、町民広場

内容：環境川柳、ポスター、標語の表彰式

温暖化講演会「今さらきけない温暖化、宮城も危ないの？」

講師：井手迫義和氏（気象予報士、環境ナビゲーター）

【センターが謝礼・交通費・宿泊費を普及啓発広報事業予算より拠出し、講師招聘】

環境に関するブース

温暖化講演会ではセンターとして初めて井手迫義和氏を講師として招いた。来場者は50～60代の方々80名ほどで、講演会場（150席）は満席には至らなかったものの軽妙な語り口で会場の笑いを誘い、来場者は楽しんで聞いていたようである。講演の内容は地球温暖化による影響を季節ごとに説明し、低炭素社会とはどんな社会か、家庭でできる地球温暖化対策についての話に及んだ。最後は「あなたも環境ナビゲーターになってみてください」と、周囲の人々へ働きかけることの大切さを呼びかけて話を終えた。

CO₂排出削減量（見込み）：1,032.0kg-CO₂/年

（白熱灯を蛍光灯に取り替える。34.4 kg-CO₂/年×30名。省エネルギーセンター発行家庭の省エネ大辞典より）

総括：

井手迫氏の話は来場者からの声を拾ったり、4コマ漫画の吹き出しを来場者に読んでもらったりして展開していくスタイルで、気構えることなく話を聞くことができ、「わかりやすい話」という利府町の希望していた通りの講演になっていたと思われる。また、「低炭素社会」をキーワードに、社会の中で変えていくことができること（例：高速道路に太陽光発電システムを埋め込む）や家庭でできること（例：太陽光で充電できるバッグ、携帯電話、蛍光灯、LED）について豊富な事例をご紹介いただき、地球温暖化対策が生活の質を落とすものではなく、新しい社会システムを構築することであると来場者に理解させるものであった点が特徴的であったと考える。これまでセンターではさまざまな講師を招いてきたが、「対策」「低炭素社会」に重点を置いた講師は少ない。温暖化についての基礎知識を有する方々を対象とする講演では、特に興味深く聞いてもらえるのではないかと思う。



井手迫義和氏



会場の様子

(6) 角田市環境フォーラム報告

日時：2/27（土）13:30～15:00

場所：角田市市民センター大ホール

内容：

基調講演「地球温暖化のこと、教えてマサくん！」 TBC 気象キャスター 佐藤正則氏
実践発表「ミネ幼稚園 環境活動」 宗教法人長泉寺 ミネ幼稚園教諭 佐藤美貴氏
センターは共催。基調講演講師として佐藤正則氏を紹介し、当日はパネル展示を行った。

CO₂ 排出削減量（見込み）：2,752.0kg- CO₂ / 年

（白熱灯を蛍光灯に取り替える。34.4 kg- CO₂ / 年 × 80 名。省エネルギーセンター発行家庭の省エネ大辞典より）

概要：佐藤正則氏の講演は、知名度の高さからか2階席を開放するほどの盛況ぶりで約350名の来場者があった。講演内容自体は地球温暖化の仕組みや原因、影響など基礎知識に関するものだったが、自身のエピソードなどユーモアを交えた話に終始和やかな雰囲気であった。ミネ幼稚園の実践発表では、環境活動とその効果（水道使用量の変化など）が具体的な数値で表されており、来場者はうなづきながら聞いていた。

本イベントは講演をメインとしたものであり、来場者は講演会場に直行して終わり次第すぐに帰る方が多い。そのためパネル展示はあまり見る時間が無いが、パンフレットやチラシ（5種、各10部程度）は半分ほど無くなっており、おそらく講演前に軽く立ち寄った来場者が持っていったものと思われる。

総括：集客の良さは角田市側が非常に喜んでおり、センターとしても良い印象を残すことができたと思う。角田市には数年前から講師紹介の依頼をいただいております、これまで継続して講演会が好評であったことの現れであると考えます。さらに角田市の場合は他の市町村イベントでの講師招聘とは異なり、講師料は角田市の拠出である。イベントでの講師招聘はこれまで普及啓発・広報事業から拠出してきたが来年度以降予算が無くなることを考えると、角田市との関係を維持することは非常に重要である。



上段左：佐藤正則氏
上段中：佐藤美貴氏
上段右：パネル展示
下段：講演時の会場の様子

3. 事業 温暖化防止キャラバン隊（センター10周年企画）

3-1. 開催校一覧

番号	日時	学校名	場所	人数
1	9/28 (月) 10:30 ~ 11:30	角田市立北郷小学校	北郷小学校体育館	90 名
2	9/30 (水) 13:30 ~ 15:30	気仙沼市立鹿折中学校	体育館	約 310 名
3	10/1 (木) 13:25 ~ 14:35	大崎市立田尻中学校	大崎市田尻中学校体育館	369 名
4	10/21 (水) 14:15 ~ 15:45	仙台市立台原中学校	仙台市立台原中学校体育館	740 名
5	10/21 (水) 9:35 ~ 11:30	大崎市立池月小学校	池月小学校多目的ホール	約 30 名
6	11/29 (日) 13:30 ~ 14:30	大崎市立大貫小学校	大貫小学校体育館	96 名
7	11/30 (月) 10:45 ~ 12:00	仙台市立北六番丁小学校	4階音楽室	40 名
8	平成 22 年 1/22(金) 10:55 ~ 11:55	女川町立第 4 小学校	音楽室	57 名
9	2/5(金) 10:30 ~ 12:00	尚綱大学	尚綱学院大学 5F 講義室	約 300 名
10	2/10 (水) 13:30 ~ 15:30	私立東北生活文化大学高等学校	百周年記念塔ホール	約 400 名

3-2. 各回の報告

(1) 角田市立北郷小学校

日時：9/28（月） 10:30～11:30

場所：北郷小学校体育館

対象：4,6 学年 53 名（5 年生はインフルエンザに罹患した児童がいたため、全員教室待機）

総括：

少人数だったためか子どもの声を拾いやすく、子ども達の反応も良かった。最後の感想では、「自分達の生活が地球温暖化に関係していることを初めて知った。そのせいでツバルのように美しいところが無くなってしまふのは嫌だ」という発表があり、温暖化について関心を持つという目的は達成されていると思われる。また、教員からも「先生は今まで水を買って飲んでいたが、これからは止めて水筒を持とうと思います」と子ども達に向けての言葉があり、学校全体として今回の講演を受け止めている様子が伺えた。

教頭との会話の中で「教員はみんな前向きで熱心である。しかし、何をすればいいか、どうすればで

きるか情報がない」という主旨のコメントがあった。本企画の案内は県内全小中学校に届いているはずであるが、広報の方法を再考する必要があるのかもしれない。



左：
講演中の様子

右：会場の様子

(2) 気仙沼市立鹿折中学校

日時：9/30(水) 13:30～15:30

場所：鹿折中学校体育館

対象：全校生徒、近隣小学校6年生 合計約300名

総括：

ユネスコ・スクールに認定されており、環境学習に熱心に取り組んでいるとのことであった。また、講演予定時間が2時間という長時間だったこともあり、ツバルの洪水はどうして起こるかなど、踏み込んだ内容にも触れた。小学生にとっては内容が少し難解であったかもしれないが、約1時間半であったにもかかわらず、落ち着いた様子で話を聞いていた。

気仙沼市の中だけでユネスコスクールに認定されている学校は15～16校あるとのことであり、今後環境学習を広めていくにあたって連携を図りたい。



左：
講演中の様子

右：生徒から御礼の言葉

(3) 大崎市立田尻中学校

日時：10/1(木) 13:25～14:35

場所：田尻中学校体育館

対象：全校生徒 349名

総括：

宮城教育大学とも協力し、環境学習には熱心に取り組んでいるとのことである。校内にビオトープガーデンがある他、来年名古屋で開催されるCOP10(生物多様性)でも発表することが決定しているそうであり、エネルギー問題や省エネについても取り組んでいるが、主として生物多様性という視点での

環境教育に力を入れているようである。

そのためか、写真を提示したりクイズをすると生徒からの反応が見られたが、地球温暖化の影響の話に進んでいくと反応が少なく、質問をしても答えが無かったり「わからない」という生徒が多かった。



左、中央：講演の様子 右：ビオトープガーデンで川魚放流式

(4) 大崎市立池月小学校

日時：10/21（水） 9:35～10:40

場所：池月小学校 多目的ホール

対象：5,6 学年 23 名

総括：池月小学校は、全学年で 50 名程度の小人数で、広い校庭と豊かな自然に囲まれた学校である。また、金銭教育研究校として指定を受けており、環境と生活の仕方を金銭教育に結びつけながら今後環境教育を行なう予定とのことであった。そのため、今回の遠藤秀一氏の講演の中では、自分たちができることとして買い物を中心にお話を行っていた。今回は 10 周年講演会の中でも最も少ない人数での開催となったが、そのため生徒の反応はとても良く、ひとつひとつの映像や説明に驚きと関心を示していた。講演最後の質問では、先生に促されるも、疑問に思っていたところが話の中にあっただから、と質問は出なかった。しかし、感想の中には、「僕たちが買うことが CO2 をだしていることにびっくりした」と言う生徒もあり、しっかりと内容が伝わっていることがうかがえた。また、終了後には遠藤氏の周囲に生徒が集まり、いろいろな質問で盛り上がっていた。



左：
講演中の様子

右：講演後、児童からの質問を受ける

(5) 仙台市台原中学校

日時：10/21（水） 14:15～15:45

場所：台原中学校体育館

対象：1～3年生生徒約 550 名（1 クラスインフルエンザにより下校）保護者・周囲住民 30 名程度

共催：仙台市立台原中学校父母教師会、仙台市立旭丘市民センター、仙台市立三本松市民センター

総括：中学校や PTA、市民センターが協力しての開催となった今回の講演会は、10 周年キャラバンで最多の 580 名の参加者となった。学校も保護者も大変熱心で、遠藤氏の講演会を楽しみにしており、また学校新聞では学生がツバルの記事を書くなど、環境に対しての関心もある学校であった。一方、講演会については、大人数であったことと、体育館が真っ暗だったこともあり、遠藤氏の公演中の反応は見られなかった。しかし、ペットボトルを示しながらの説明の場面や、遠藤氏が生徒に直接尋ねる場面では、しっかりと答えており、講演の内容は理解しているようであった。



左：講演中
右：生徒に呼びかける遠藤氏

(6) 大崎市立大貫小学校

日時：11/29（日）13:30～14:30

場所：大貫小学校体育館

対象：4,5,6 学年 64 名 保護者約 30 名

総括：

大貫小学校では、蕪栗沼での環境学習を積極的に行っており、「地域からさらに幅広い視野で考えたい」と今回ご応募いただいた。当日は体育館の落成式と併催され、保護者の参加も多数あった。

児童は 4 学年から 6 学年までのため、4 学年の中には多少飽きている児童も見受けられたが、大半の児童は映像や遠藤氏の話に反応を示しており、活発な印象の講演会となった。講演後の質問では「ペットボトルの使用を抑制すると経済への影響は出ないか？」といった質問があり、これに対して遠藤氏は「消費者の行動が変われば、企業のあり方も変わってくる」という主旨の回答をし、保護者もうなづきながら聞いていた。

大貫小学校の環境学習のテーマである「ふるさとを愛し、ふるさとを大切にする」は、ツバルの人々の自国に対する思いそのものであり、それを脅かす温暖化に日本人のライフスタイルが関わっていることを知ることは、これまでの同校の環境学習との関連も深い。校長によると、普段から全校集会などで節電を呼びかけたところ、保護者から「家庭でも子どもが実践している」という声があったとのことなので、今回の講演も家庭での波及効果を期待する。



左：環境学習についての発表（PTA 会長より）
右：保護者が多数参加

(7) 仙台市立北六番丁小学校

日時：11/30（月）10:45～12:00

場所：北六番丁小学校視聴覚室

対象：5 学年 42 名

総括：当初は、6 年生・保護者と併せて 80 名程で開催する予定であったが、インフルエンザと会場の関係で 5 年生のみ対象となった。来年度に地球温暖化について学習するため、そのきっかけとしたいとのことであった。

会場が視聴覚室であったため、遠藤氏と児童の距離が近く、会話をするような親しみやすい雰囲気での講演が進行した。児童の反応も非常に良く、地球温暖化の影響について感覚で学んでいたことが伺えた。質問では、「ツバルにサメは何匹いますか？」など小学生らしいものがたくさんあったが、予定時間を過ぎてても質問が絶えず、ツバルに対する関心が深かったことがわかる。

写真や映像で、知識ではなく感覚として地球温暖化による危機について学んだことで、今後の学習のきっかけとなったのではないかと思う。



左：当日は東北放送の取材が入った
右：遠藤氏は、児童の発言を一つ一つ丁寧に拾い上げて進行した

(8) 女川第四小学校、出島中学校

日時：1/22（金） 11:00～12:00

場所：女川第四小学校視聴覚室

対象：女川第四小学生 20 名、出島中学校 9 名、教員 10 名

総括：今回、講演を行なった女川第四小学校、出島中学校は、女川湾の北岸に横たわる離島「出島」であり、児童数 20 名、生徒 9 名で、へき地 1 級の指定を受けている。

学区内の 95% 以上の家庭は漁業で生計を立ており、また地域住民の方は学校教育に協力的であり、漁業の作業を学校行事に合わせて総合学習として行なうなど、恵まれた環境の中で子供たちは学んでいる。

遠藤氏の話は、ツバルと出島を比較するところから入り、そしてツバルの現在の影響、私たちの生活と説明がされた。同じ島という環境から海面上昇という問題は子供たちにも実感としてあったようで「何とかしたい。」という気持ちが伝わってきた。講演終了後、児童や生徒から「他の人にも、温暖化問題を訴えて生きたい。」との意見感想が多く出された。



左：身近にできる地球温暖化対策の紹介
右：講演中の様子

(9) 尚絅学院大学

日時：2/5（金）10:30～12:00

場所：尚絅学院大学

対象：尚絅学院大学生生活環境学科 学生、一般約 300 名

総括：本事業で唯一の大学での開催となった。尚絅学院大学生生活環境学科は環境に関する活動を積極的に行っており、これまでもストップ温暖化センターみやぎの事業に授業の一環として関わって協働事業を行っている。

学生達は環境に繋がるインテリア、ファッション、園芸、設計製図など様々な分野を勉強しており、今回のツバル講演は、それらに繋がる温暖化問題の根本を具体的に学ぶ機会になり、多くの学生が熱心に聞き入っていた。また講演終了後に一部の学生や教員から「温暖化の問題だけではなく、自給自足の生活などツバルの様々な文化が分かり、大変良かった」との声が聞かれた。この講演を機に大学ではタンブラーの利用を促進しようと発言がでるなど、強い影響を与えたようだ。



左：ペットボトルの使用抑制を呼びかける
右：会場の様子

(10) 東北生活文化大学高等学校

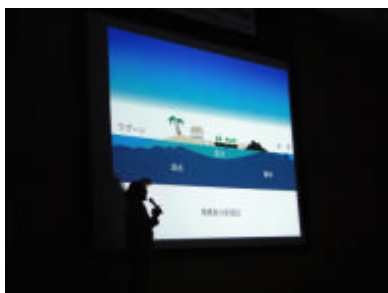
日時：2/10（水）13:30～15:30

場所：東北生活文化大学高等学校 100周年記念棟

対象：東北生活文化大学高等学校 生徒 294 名（総合学習の時間で聴講を希望した生徒）

総括：本事業で唯一の高校での開催となった。講演が進むにつれてツバルの風景や文化に興味を持ち、聞き入っている様子が伺えた。高校生対象という事でこれまでとは異なり、なぜ海面上昇によって国土が浸水するか、ペットボトルと地球温暖化の関係からペットボトルを本当に使用しなければならないかなど難易度が高く深い内容であった。そのためか、後半になるとやや集中力が途切れた感もあった。講演終了後には「ツバルのために出来ることは何か？」という質問があり、今回の講演を機に行動を起こしたいと思っている気持ちを読み取る事ができた。また、同校では服飾や美術などの様々なコースがあり、服飾コースと思われる生徒から「ツバルの服は何の素材でできていますか？」という質問も出た。

会場となった100周年記念棟は約400名を収容する階段型のホールで音響設備やスクリーンが完備されており、土日など高校の行事がなければホールを使用することも可能とのことであった。



左：海面上昇と浸水の関係の説明
右：会場の様子

3-3. アンケート結果

3-3-a. 方法など

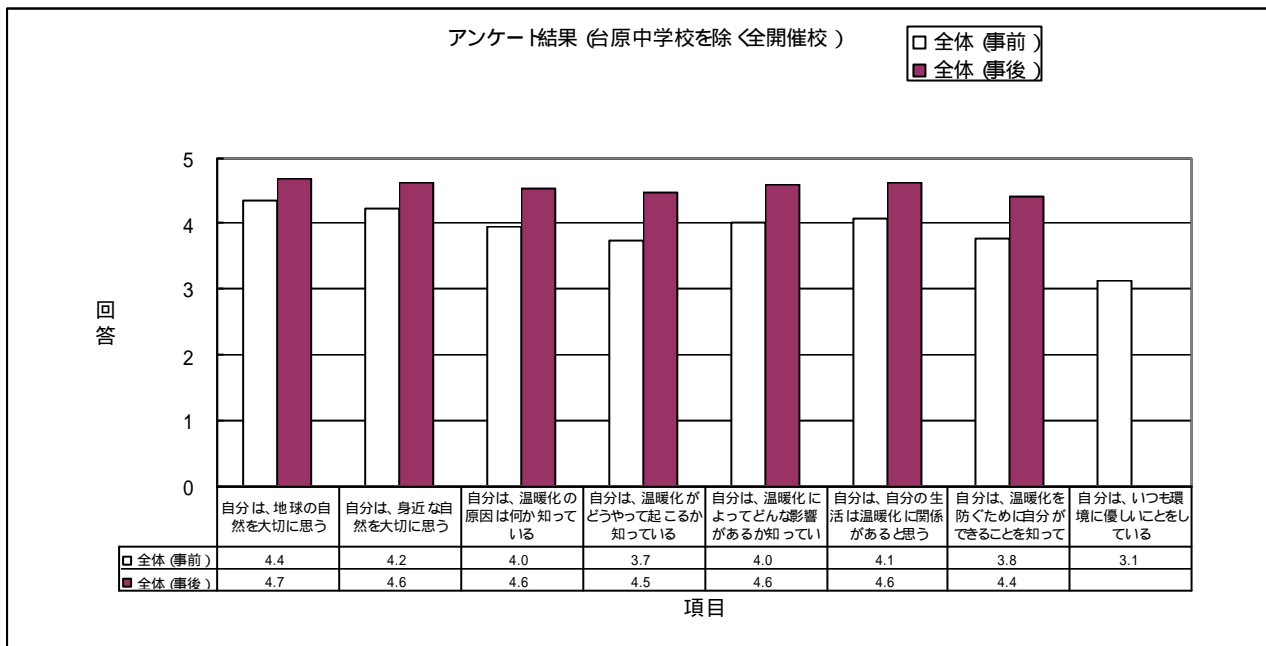
方法：講演前後に各 1 回アンケートをとる。

有効回答：1072 / 1130 名

3-3-b. 講演前後の意識変化

結果：以下のグラフの通り。

とてもそう思う = 5 そう思う = 4 どちらでもない = 3 そう思わない = 2 全くそう思わない = 1



考察：

講演前後において全ての項目でポイントの上昇が見られたことから、講演を通して地球環境に対する愛着を深め、地球温暖化に関する知識を得ることができたと考えられる。中でも特に上昇幅が大きかったのは地球温暖化の仕組みに関する項目（自分は、地球温暖化がどうやって起こるのか知っている）である。

また事前アンケートのうち、「自分は、温暖化の原因は何か知っている」「自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う」「自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている」「自分は、いつも環境にやさしい行動をしている」の 4 項目の結果のみに着目すると、地球温暖化の原因については知識があり、自分の生活との関連を感じていながらも（両項目とも「そう思う」にあたる 4 ポイントを上回る数値である）環境配慮型行動にはどんなものがあるのかの情報不足しており、その結果行動にも移されていないという状況が推測される。今回の講演では身近にできる行動の例としてペットボトルの購入を控え、タンブラー使用を呼びかけた。このように具体的な行動を提示することは、対象者に環境配慮型行動の実践を促す方法として有効であると思われる。

3-3-c. 今後新たに実行したい環境配慮型行動

結果：以下の表の通り。

【算出方法】CO₂排出削減量（見込み） 17282.44kg-CO₂

内訳は以下の表の通り。出典は全て環境省チームマイナス6%ホームページ。

6g-CO₂ / 日 × 365 日 = 2.19kg-CO₂ / 年

62g-CO₂ / 日 × 週 3 回 × 1 年 9.70kg-CO₂ / 年

52g-CO₂ / 日 × 週 3 回 × 1 年 8.13kg-CO₂ / 年

13 g-CO₂ / 日 × 365 日 = 4.74kg-CO₂ / 年

	ペットボトルの 飲み物を買わない	買い物のとき、 レジ袋をもらわない	ごみは分別して 捨てる	テレビを見ないと きは消す
人数	361	778	632	802
割合	32.5%	70.1%	56.9%	72.3%
削減量 (kg-CO ₂) / 年	790.59	7545.49	5140.87	3805.49

考察：

集計の結果から、今後新たに始めたい行動は「テレビを見ないときは消す」というものであった。またほぼ同数の児童・生徒が今後「買い物のとき、レジ袋をもらわない」と回答している。ゴミの分別に関しては、日常生活において特に小中高校生にとってはゴミを出すという行為は親が行うものであり、自分にとって身近な行動であると感じられなかったのではないかと推測される。

注目すべきは「ペットボトルの飲み物を買わない」という項目が最も低かったことである。講演の中でペットボトル使用の抑制を呼びかけているにも関わらずこのような数値となったことの要因としては二つ考えられる。まず一つは、ペットボトル飲料が生活の中に根強く浸透しているということである。後述する台原中学校の生徒ではあるが、実際にアンケートの回答で「ペットボトル飲料を買わないということはできないが、他にできることをしたい」と回答した生徒もいる。もう一つは、ペットボトル飲料の使用をやめた時、その代替手段がないと感じたことが挙げられる。講演では講師はタンブラーに水を入れて持ち歩いているとの話があったが、水以外の飲料の場合にどのようにすればよいかはわからなかったのかもしれない。同じく台原中学校の生徒ではあるが、アンケートの中では「炭酸飲料の時はペットボトルしかないですか？」という旨の質問があり、上記の要因を端的に表している。

3-3-d. 感想（誤字・脱字修正、コメントの分類は事務局。その他は原文のまま）

<ツバルという国に関して>

- ・ ツバルは本当は、キレイで自然豊かな所なんだなあと思いました。（中学 1 年）
- ・ 「ツバル」は、とても美しい国だということが分かりました。（中学 2 年）
- ・ ツバルの海はとてもきれいですごいなと思いました。ツバルに、将来行ってみたいです。（中学 2 年）
- ・ いろんな自然の写真などを見たときに日本は比べられないくらい自然がすごくキレイで、普通はあんなふうにキレイでいけなきゃいけないのに、人々によって、こんなに汚い環境になったんだと思うし、この先同じことをしていけないから、常に生活を変えていき皆で世界をキレイにしていきたい

いなと思いました。(高校1年)

- ・ ツバルの話は全く知らないわけではなかったのですが、遠藤さんの話しはとても深く私がまだまだ知らないことがたくさんあるのだと思いました。(高校1年)

<ツバルの人々に関して>

- ・ わたしは、ツバルの人たちにとっても、もうしわけないと思いました。(小学4年)
- ・ 日本はこんなにしあわせなのにツバルの人たちはかわいそうです。(小学4年)
- ・ 自分たちのせいで、ツバルの人にえいきょうがあると知って、悪いことをしてたんだなぁと思いました。(小学6年)
- ・ すごく心がいたくなりました。ツバルの人は何もしていないのに私たちのせいでこれはいけないと思います。(中学1年)
- ・ 特にツバルのトップの方からのお話が印象に残っています。日本とツバル、国は違っても、同じ地球に住んでいる一員だということを考えても、今まで、ツバルのことは他人事という気持ちがあったのに対して、ツバルのことも自分のことだという感じがしてきました。(中学2年)
- ・ ツバルが大変なことになって、夢も叶わなくなってしまうのがかわいそうだった。(小学6年)
- ・ 大量消費の生活をしている私たちの生活は、ツバルのように自給自足の生活をしている人たちからみれば不自然だと思う。(大学3年)

<ツバルと地球温暖化に関して>

- ・ ツバルは、でんきをつかっていない(でんきがない)のに日本はすごくいっぱい使っているのになんでツバルはうみにしずみそうになるのかなぁとおもいました。(小学4年)
- ・ ツバルの人は悪くないのに日本人はあたりまえにつかってそれでツバルの島をけずってしまう。それはでんきをつかっている私たちにもんだいがあると思います。(小学4年)
- ・ ツバルの国がそんなに大変だとは思いませんでした。(中学1年)
- ・ 自分の身近なことからはじめて、ツバルの海面上昇をふせごうと思いました。(中学2年)
- ・ ツバルの問題だけでなく、このまま行けば世界全体の問題になってくると思いました。(高校1年)

<地球温暖化について>

- ・ 私たちが、二酸化炭素を出すと、ツバルに、えいきょうがいつてしまい、ツバルに、めいわくがかかっているし、未来の私たちもどうなっているかわからないくらいなので、二酸化炭素をできるだけ出さないようにしたいです。(小学6年)
- ・ 温暖化についてくわしく家族に教えてあげたいと思いました。(小学6年)
- ・ 日本があたり前だと思ってこれまでくらしで来て、温暖化なんて気にしてませんでした。(中学1年)
- ・ 僕たちが今まで普通のことだと思ってしていたことが温暖化の原因になっていてびっくりしました。(中学3年)
- ・ 地球温暖化が及ぼす影響は、自分が想像していたものよりもずっと大きいということがわかった。(高校1年)
- ・ 講演をきいていまはまだあまり日本に影響ないからそれでいいとかじゃなくて影響がないうちに地球温暖化をとめたいです。(高校1年)

<自分及び日本と地球温暖化の関係>

- ・ 自分のやっている行動 1 つで 1 つの島がなくなる事は、とても重大な事だと思いました。(中学 2 年)
- ・ これからの私たちのくらしでツバルやいろいろな国々の未来がかわっていくんだなと思いました。(小学 6 年)
- ・ 自分達が毎日消費しているものが、大量にエネルギーを利用していることに気づくことができ良かったと思う。(高校 1 年)
- ・ 私たち 1 人 1 人ができることは小さいです。でも、それがつみかさなれば未来はかわるのだと思いました。(高校 2 年)
- ・ ツバルの現状を知って自分がどれだけ二酸化炭素を出している温暖化の原因とされていることがわかりました。(大学 1 年)
- ・ 私たちが変わらなければ変わらないと強く感じた。(大学 1 年)
- ・ 美しいツバルが被害にあっていることを以前から知っていて、このツバルを救うために私たちが動かなければいけないと考えていたが、私たちの未来のためでもあることを知り、考えが変わりました。(大学 1 年)

<これまでのライフスタイルに関して>

- ・ ツバルのことを考える前に、自分の生活を見直さないといけないと思いました。(中学 1 年)
- ・ 私は、温暖化を分かり、防ぐことも分かっていたのに、「まだ、いいや」と思って、活動をしていませんでした。ツバルの様子を見て、もう「いいや」ではないことに気付きました。(中学 1 年)
- ・ あたり前だと思っていたことを見直す必要があると思った。(中学 3 年)
- ・ 私のごく普通にしていることが地球に悪いことが、分かりました。(高校 1 年)
- ・ ペットボトルの話を聞いて、ドキッとしました。今まで何も考えないで買っていた自分が恥ずかしくなりました。車を使わなくても 1 日に 6 . 7 リットルも石油を消費していることにおどろきました。「企業が悪い」のではなく消費者から変わっていかねばいけないということがよく理解できました。(大学 1 年)
- ・ 普段なにげなく買っているペットボトルは実は温暖化にかなりつながっているのにかかなり衝撃を受けた。(大学 1 年)
- ・ 自分でもエコを意識していると思っていたのですが、まだ足りないなと考えなおしました。(大学 1 年)

<これからのライフスタイルについて>

- ・ ツバルは、電気とかを作っていないのに、島がしずむと言っていたのでペットボトルのジュースをあまりかわないようにしたいです。(中学 1 年)
- ・ ツバルの人は、私たちみたいにむだに、ゴミなどを出していないので私たちも見習いたいと思いました。(中学 2 年)
- ・ これからは、ムダなエネルギーを出さないように、極力ものを買わないようにします。(中学 3 年)
- ・ 私はこれからの毎日、ペットボトルやムダな物を買わず、ゴミをあまり出さないように地球温暖化防止の取り組みをしていきたいと思います(中学 3 年)
- ・ 50 年後、生きていたとしたら 65 才の自分を苦しめないためにも、少しでもいいからエコかつどう

をしなればと思いました。(中学3年)

- ・ なにも思わないで、ペットボトルの飲み物を買ってしまうと、ツバルにその分えいきょうしてしまうから、できるだけ買わないようにしたい。(小学5年)
- ・ 自分が何気なく買っているもので一つの島が消えるということを知ったので、これからは自分が自然を守るためにできることをして、ツバルを救いたと思います。(中学3年)
- ・ これからものを買う時は地産地消のものを買おうと思いました。(高校1年)
- ・ 無駄な買い物をしない。それだけでも大きなエコになると気付かされました。今日の講演会を機に今後の生活を見直してみたいと思う。(大学1年)
- ・ 小さいことからエコを始めて行こうと思う。(大学2年)
- ・ これからはよく考えて物を買おうと思えます。(大学3年)
- ・ 私たちがペットボトルを使わないことで社会が変わっていくのならタンブラーを持ちあるこうと思った。(大学3年)

<その他>

- ・ 今の地球がそのまま未来につながっていると思います。(中学2年)
- ・ 口だけで温暖化といっても、行動してやらないと自分達の未来にかかわる重要なことなんだと思いました。(中学2年)
- ・ 環境を大切にすることは、ツバルという国を守ることでもあるし、地球の未来も守ることにつながることが分かったので、前より環境のことを大切だと思えました。(小学6年)
- ・ あたりまえの事をちゃんとしていけば国を救うことができるんだと感じました。(大学1年)
- ・ 私達は地球温暖化という現状を甘くみているということがわかった。杜の都といわれる仙台も空から見れば建設物でうもれていた。もっと都心はどんものなのかペットボトル商品に金を払うのはバカバカしく思えてきた。(大学2年)

「ツバルから考える地球の未来」アンケート

講演前

Q.あてはまる数字に丸をつけて下さい。

学年 _____ 年

	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない
自分は、地球の自然を大切に思う	5	4	3	2	1
自分は、自分の身近な自然を大切に思う	5	4	3	2	1
自分は、温暖化の原因は何か知っている	5	4	3	2	1
自分は、温暖化がどうやって起こるか知っている	5	4	3	2	1
自分は、温暖化によってどんな影響があるか知っている	5	4	3	2	1
自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う	5	4	3	2	1
自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている	5	4	3	2	1
自分は、いつも環境に優しいことをしている	5	4	3	2	1

ありがとうございました。

ストップ温暖化センターみやぎ

「ツバルから考える地球の未来」アンケート

こうえんご
講演後

Q.あてはまる数字に丸を付けて下さい。

	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない
自分は、地球の自然を大切に思う	5	4	3	2	1
自分は、自分の身近な自然を大切に思う	5	4	3	2	1
自分は、温暖化の原因は何か知っている	5	4	3	2	1
自分は、温暖化がどうやって起こるか知っている	5	4	3	2	1
自分は、温暖化によってどんな影響があるか知っている	5	4	3	2	1
自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う	5	4	3	2	1
自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている	5	4	3	2	1

Q.あなたがこれから新しく始めてみたいと思う、環境に優しい行動に丸をつけてください。(何個でも)

ペットボトルの飲み物を買わない / 買い物するとき、レジ袋をもらわない
ごみは分別して捨てる / テレビを見ないときは消す / その他()

Q.今日の講演の感想を教えてください。

ありがとうございました。ストップ温暖化センターみやぎ

3-5. 台原中学校アンケート結果

3-5-a 方法など

方法：講演前後の各1回アンケートをとる。

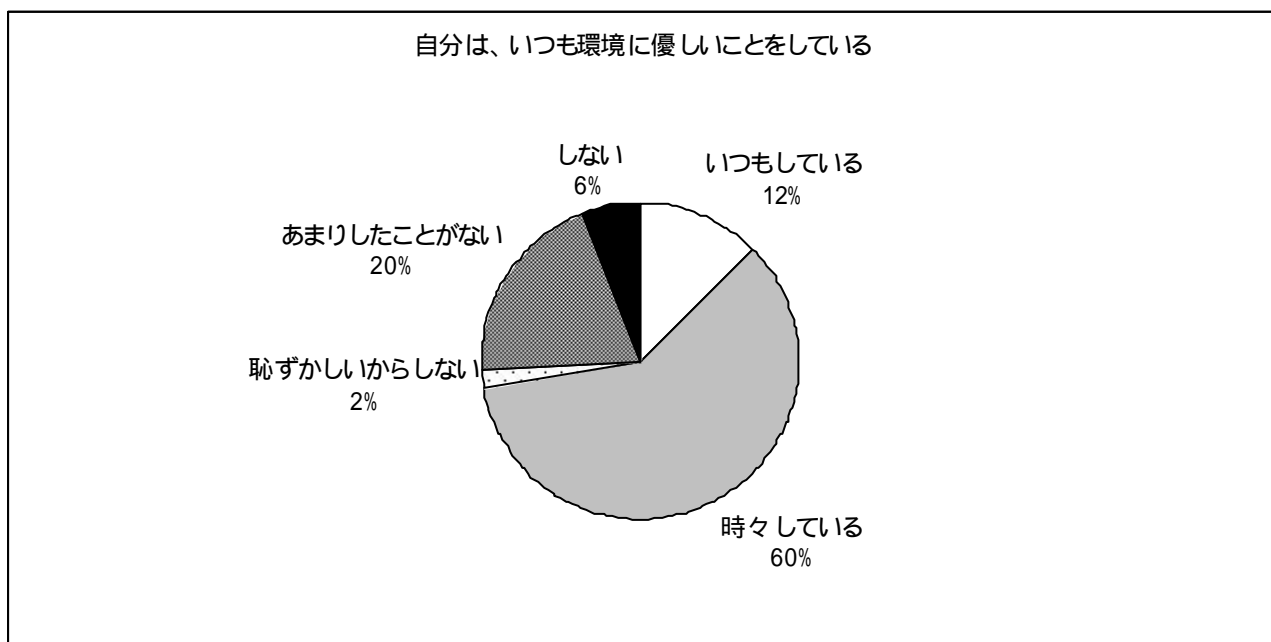
3-5-b. 講演前後の意識変化

有効回答：545 / 561 名

結果：以下の表の通り

	自分は、地球の自然を大切に思う		自分は、身近な自然を大切に思う		自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
とてもそう思う	40.2%	55.9%	32.8%	49.0%	37.4%	54.0%
そう思う	51.2%	37.9%	54.1%	43.3%	45.0%	37.0%
どちらでもない	6.8%	4.7%	10.3%	6.9%	12.8%	7.1%
そう思わない	0.2%	0.6%	0.9%	0.2%	2.2%	0.6%
全く思わない	1.7%	0.8%	1.8%	2.6%	2.6%	1.4%

	自分は、温暖化がどうやって起こるか知っている		自分は、温暖化によってどんな影響があるか知っている		自分は、温暖化の原因は何か知っている		自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
よく知っている	34.1%	57.3%	45.3%	62.8%	44.2%	62.6%	35.8%	55.3%
聞いたことはある	61.5%	41.5%	51.6%	36.0%	51.9%	35.8%	58.3%	42.7%
全く知らない	4.4%	1.2%	2.9%	1.2%	3.9%	1.4%	5.9%	2.0%



考察：

全ての項目において、事前アンケートでは「そう思う」または「聞いたことはある」という回答が最も多かったが、事後には「とてもそう思う」「よく知っている」という回答が最多となったことから、講演を通して地球環境に愛着を深め、地球温暖化に関する知識を得ることができたと考えられる。全体として地球温暖化の原因や影響、対策等の知識は9割以上（「よく知っている」「聞いたことはある」と回答した生徒の合計）の生徒が有していながらも、実際に行動に移している生徒は約7割（「いつもしている」「時々している」と回答した生徒の合計）と減少しており、3-3-b.の考察において述べた状況と同様の傾向があることが推測される。

3-5-c. 今後新たに実行したい環境配慮型行動

有効回答：507 / 561 名

結果：CO₂排出削減量（見込み） 8129.33kg-CO₂ / 年

内訳は以下の表の通り。出典は全て環境省チームマイナス6%ホームページ。

6g-CO₂ / 日 × 365 日 = 2.19kg-CO₂ / 年

62g-CO₂ / 日 × 週3回 × 1年 9.70kg-CO₂ / 年

52g-CO₂ / 日 × 週3回 × 1年 8.13kg-CO₂ / 年

13g-CO₂ / 日 × 365 日 = 4.74kg-CO₂ / 年

	ペットボトルの 飲み物を買わない	買い物のとき、 レジ袋をもらわない	ごみは分別して捨 てる	テレビを見ないと きは消す
人数	163	361	332	331
割合	32.1%	71.2%	65.5%	65.3%
削減量 (kg-CO ₂) / 年	356.97	3501.18	2700.58	1570.60

考察：

台中学校においては「買い物のとき、レジ袋をもらわない」が最も多く、続いてほぼ同数の生徒が「ごみは分別して捨てる」「テレビを見ないときは消す」との回答があった。ペットボトル使用の抑制に関しては3-3-c.の考察と同様の要因が推測される。

3-5-d. 感想（誤字・脱字修正、コメントの分類は事務局。その他は原文のまま）

<ツバルという国に関して>

- ・ ツバルはとても美しい所で一度行ってみたいと思った。
- ・ ツバルの大切さなどがしみじみ理解しました。
- ・ これからは身近な自然を大切にしていきたいと思った。最後に見た夕日が良かった。

<ツバルの人々に関して>

- ・ 環境問題（海面上しょう）は私たちにはあまりかんけいがないと思っていましたが、私たちの生活でツバルの人々が大変な思いをしたりするなんてはじめてしりました。
- ・ ツバルの子どもたちは、自分たちの国が沈みそうになっているのに、とても明るく過ごしていて驚

いた。自分だったら暗くなっている気がする。

- ・ ツバルの人たちは、地球に優しいことをしてるのに被害をうけててかわいそうだと思った。
- ・ ツバルの人の生活がとても地球に優しくていいなと思った。写真が美しかった。

< ツバルと地球温暖化に関して >

- ・ ツバルはなにもわるいことをしていないのに、ほかの国のせいでしずんでしまうなんて、かわいそうだと思った
- ・ 今まで、「ツバルが沈むかも」と聞いても、「へー、そうなんだ。大変だね」ぐらいにしか考えていませんでした。でも、今回、この講演を聞いて、ツバルのこの問題が、もっと近くにあったことにおどろきました。
- ・ ツバルでは、大変なことがおきているのに、人は知らず知らずのうちにムダなことなどをしてきたんだなと思いました。

< 地球温暖化について >

- ・ なにをしても、二酸化炭素がでて地球に良くないということが分かってショックだった。
- ・ ペットボトルの話を聴いて、よくよく考えるとそうだなあと思った。
- ・ あたり前の様に言われ、騒がれている温暖化のことであったが、この講演で、今まで知らないのに知ったようなふりをしていたことを残念に思った。
- ・ 地球温暖化について、自分の生活と考えながらきけた。
- ・ 生活の全てが温暖化に影響しているように感じました。
- ・ ペットボトルがそんなに、影響するなんて知らなかった。
- ・ 今回、お話を聞いて“地球温暖化”の原因をよく知ることができました。そんなに関係ないかな。と思っていたのが大きな間違いだと気付くことができました。
- ・ 地球温暖化は私たちが進めていることを改めて感じた。
- ・ 私たちの1つ1つの行動が温暖化につながっていると思ったら、もっともの大切に暮らさなくてはならないと思いました。
- ・ とても地球温暖化について良くわかりました。そしてそれは私達一人ひとりの責任であることも改めて感じたので、今後に活かしていけたら良いな、と思いました。
- ・ 今回はツバルの話だったけど、ツバルだけでなく、世界中が大変だってことにも気づいた。

< 自分及び日本と地球温暖化の関係 >

- ・ 自分達がいかに無駄づかいしているかを理解して、おろかだなと思った。
- ・ ぼくは、「温暖化なんてぼくにはない関係ない」と思っていました。今日の講演をきいて、「こんなにも身近にあったのか」とすごく感じました。
- ・ 私たちの国が（の人が）さりげなくしていることがこんな結果を招いてしまったので他の国にもうしわけないなと思いました！
- ・ 他人事ではないんだなと改めて思いました。コンビニはかなりむだ使いをしていると思いました。
- ・ 自分にも二酸化炭素を出しすぎたことがたくさんありました。そのことになにも思わなかった自分がとてもイヤです。
- ・ 今のままだとツバルが沈んでしまうのがよくわかった。自分達で何か変えていきたい

- ・ 私達が二酸化炭素を出すことによってツバルの人たちに迷惑をかけていることが、ショックだった。
- ・ 私達が出している二酸化炭素のおかげで、二酸化炭素を出さないツバルや小さな島々が被害を受けるのは理不尽だと思った。
- ・ ツバルについては以前聞いたことがあり知っていたが、ツバルに住む人々から見て日本に住む私は悪者なのかもしれないと悲しくなり、必ず小さな努力をしていきたいと思った。
- ・ 自分たちが普段している生活だけでも温暖化に関係があることがよく分かった。
- ・ 僕らの未来は僕らが決める、その通りだと思いました。
- ・ ペットボトルがきらいになりました。ツバルが沈んでしまう、その原因が自分の生活かもしれない、と初めて実感できた。
- ・ 私たちの1つ1つの行動が温暖化につながっていると思ったら、もっともの大切に暮らさなくてはならないと思いました。
- ・ 日本人はきっと、自分には関係ないことだと思っている人が多いと思いました。みんな誰かがやってくればいいではだめだと思いました。

<これまでのライフスタイルに関して>

- ・ 今までの自分の生活を見直すことができました。これからやっていかなければならないことがたくさん見つかりました。
- ・ 自分が電気を使いすぎていることにちょっと反省した。
- ・ 私はいつも二酸化炭素をふつうにたくさん使っていたのでこれからきをつけようと思いました。
- ・ 温暖化が進んだらやばいのは分かっていたけれど、いつも、行動に移せていなかったなので、今日の講演を聞いて改めてエコしてみようと思いました。

<これからのライフスタイルについて>

- ・ 地球温暖化はたいへんだということがわかった。レジ袋をもらわないのはかんたんなので続けたい。
- ・ 私はいつもペットボトルの飲み物を買っているのでこれからは気をつけたいと思った。
- ・ 私は、これから、My ボトルにしようと思います。
- ・ 電気の消し忘れには気をつけていたが、ペットボトルなどは、あまり意識せずに買っていたので、これから気をつけていこうと思います。ツバルのために自分に出来る事があればやりたいと思います。
- ・ 電気などそういう身近なことは知っていたけど、ペットボトルの飲み物と温暖化が関係していることをはじめて知ってこれからはなるべくかわないようにしたい
- ・ 必要なものと不必要なものを区別して買い物をする。
- ・ レジ袋はもらわないようにします。
- ・ ペットボトルや、テレビを見ない時は消すというのは、すぐには実行できないと思うので、少しずつがんばっていきたいです。
- ・ 今日から、なるべくペットボトルの飲み物を買わないようにしようと思った。少しずつでもいいから始めてみようとかんじた！

<その他>

- ・ あまり環境に興味がなかったので少し興味がわいたので良かった。

- ・ 日々のエコがこれからの未来につながるのだと感じた。
- ・ 僕達が大人になるころには、もっと海面が上昇し、ツバルなど小さい島が沈んでしまうので、今日聞いた遠藤先生の言葉を大切にしたい

『ツバルから考える地球の未来』アンケート

Q.あてはまる に✓をつけて下さい。

学年 _____ 年

質問	回答		
自分は、地球の自然を大切に思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、自分の身近な自然を大切に思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、温暖化がどうやって起こるか知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化によってどんな影響があるか知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化の原因は何か知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、いつも環境に優しいことをしている	いつもしている あまりしたことがない	時々している しない	恥ずかしいからしない

ストップ温暖化センターみやぎ・市民センター
「ツバルから考える地球の未来」アンケート

Q.あてはまる に✓を付けて下さい。

学年 _____ 年

質問	回答		
自分は、地球の自然を大切に思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、自分の身近な自然を大切に思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、自分の生活は温暖化に関係があると思う	とてもそう思う そう思わない	そう思う 全く思わない	どちらでもない
自分は、温暖化がどうやって起こるか知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化によってどんな影響があるか知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化の原因は何か知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
自分は、温暖化を防ぐために自分ができることを知っている	よく知っている	聞いたことはある	全く知らない

Q.あなたがこれから新しく始めてみたいと思う、環境に優しい行動に✓をつけてください。(何個でも)

ペットボトルの飲み物を買わない 買い物するとき、レジ袋をもらわない ごみは分別して捨てる
テレビを見ないときは消す その他()

Q.今日の講演の感想を教えてください。

()

Q.これからも、このような講演会があったら、聴いてみたいですか？ ✓をつけてください。

とても聴きたい あまり聴きたくないが聴いてもよい 聴きたくない

Q.お話を聴いてみたい人はどの分野の人ですか？

文化(作家・評論家など) スポーツ(選手・監督など) 音楽芸能(演奏家・俳優・舞台関係など)
その他()

Q.具体的に名前を挙げて下さい()

理由 ()

ありがとうございました。

ストップ温暖化センターみやぎ

仙台市三本松市民センター・仙台市旭ヶ丘市民センター

4. 事業 温暖化防止啓発写真展

4-1. 概要

日時：2010年2月5,6,7日(金土日)(5日は終日準備)

場所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

内容：写真展示(ツバルの風景、人々、地球温暖化による被害) 地球温暖化防止啓発ブース

来場者：2/6 328名 2/7 844名 計1,172名

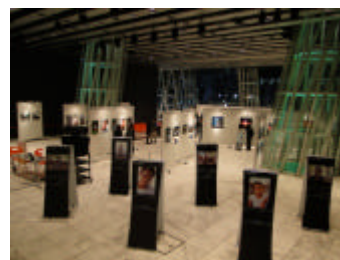
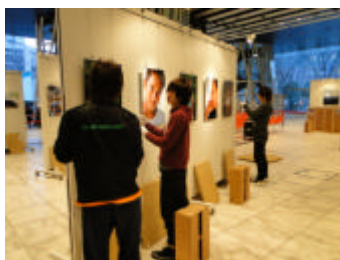
メディア取材：ミヤギテレビ、東北放送、東日本放送、河北新報

総括：

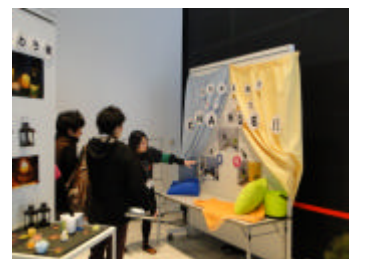
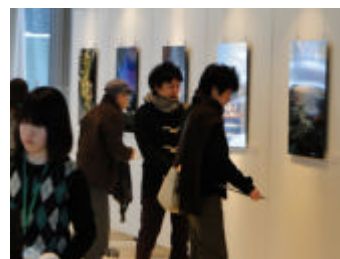
ツバルの美しい風景や人々の生活の様子の写真を展示前半部分に配置し、来場者からは「ツバルのことがわかった」「美しい」など好評を博したようであった。温暖化の被害状況や人々のメッセージはツバルの楽園のようなイメージとは対極にあり、そのギャップによって温暖化の深刻さを感じた方も多数いた。会場の立地の特性から、来場者の中では当日別の用事で会場を訪れた折に立ち寄ったという方が多数おり、環境問題に関心がない方にもアプローチできたことは大いに意義があったと思う。また、地球温暖化防止啓発ブースでは、ボランティアの方々が丁寧に説明をしたこともあり、温暖化への関心を引き出すことから行動へ移してもらうために効果的であったと思う。

今回はインターン生2名や尚絅学院大学生の方々にスタッフ、ボランティアとしてご協力をいただき、アンケートでは「ボランティアさんが熱心に教えてくれた」「若い世代ががんばっているのを見て刺激を受けた」という旨のコメントをいただいた。今回は20歳前後の大学生をメインターゲットとしていたことからボランティアにも同世代の大学生にお願いするに至ったのだが、来場者全般にわたって「若者が活動している」という事自体が好意的に受け入れられ、それによりイベント自体への評価が高まったのは思わぬ副次的効果であった。

運営面に関しては初の写真展開催という事もあり、準備や片付けの時間が大幅に伸びてしまった事が反省点として挙げられる。また、「講演会も併催したらよいのではないか」というコメントもいただいたことは、今後同様のイベントを開催するにあたっての考慮すべき点となるだろう。環境に関心が無い人、ふらっと立ち寄った人にとっては長時間の講演を行うよりは、今回の場合で言えばツバルの映像を流しながらそれに関する15分程度の短い講演を複数回行うほうが効果的であるとも思われるので、講演を行う方法を含めて一考すべきであると感じた。



上段全て：準備の様子
下段左：取材を受ける
遠藤氏
下段その他；会場の様子



4-2. アンケート結果

4-2-a. 方法

来場者にアンケートを配布。回答は任意。

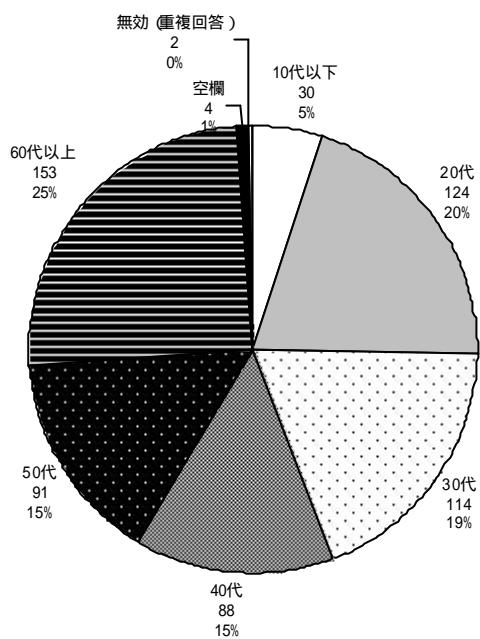
回答者数：606名

4-2-b. 結果

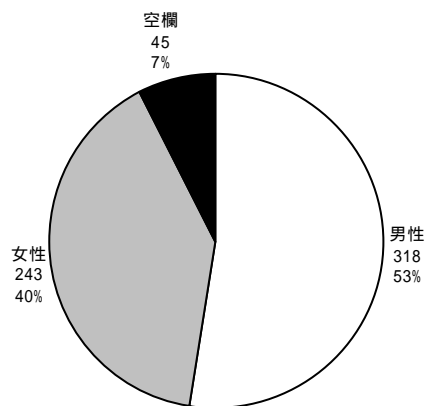
Q1. あなたの年齢・性別を教えてください。

結果：以下の表の通り。

来場者の年代

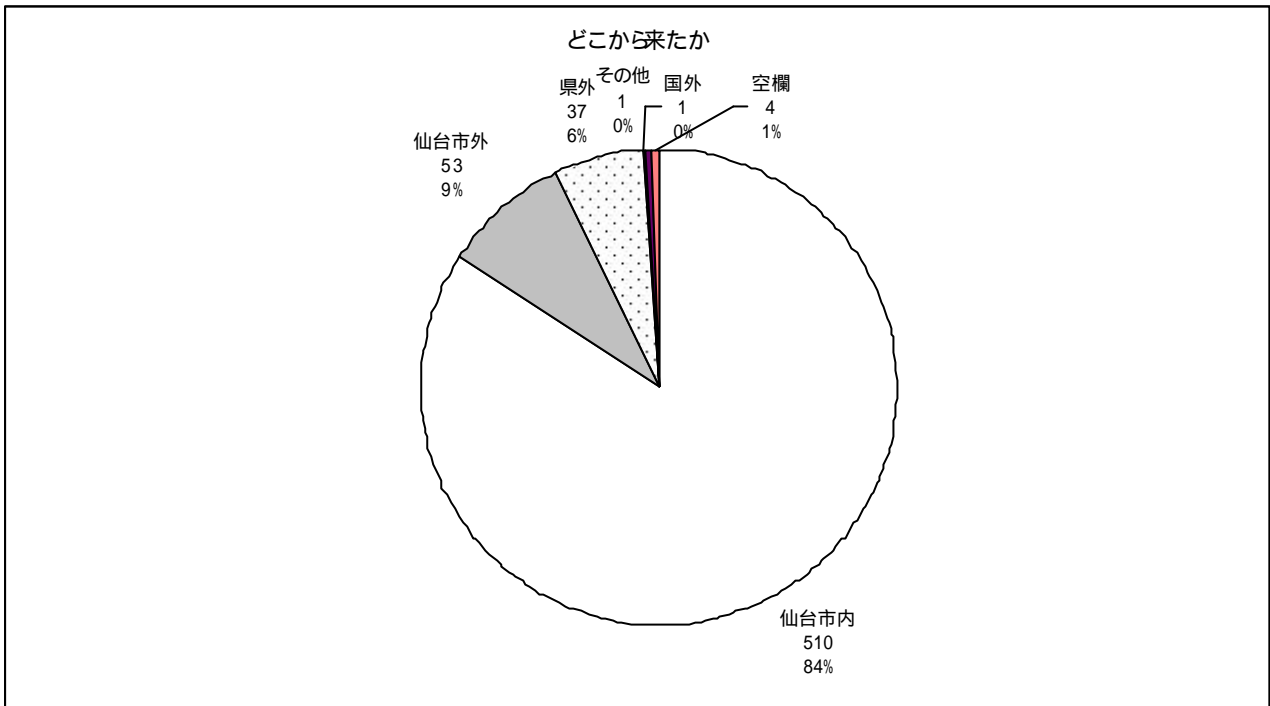


来場者の性別



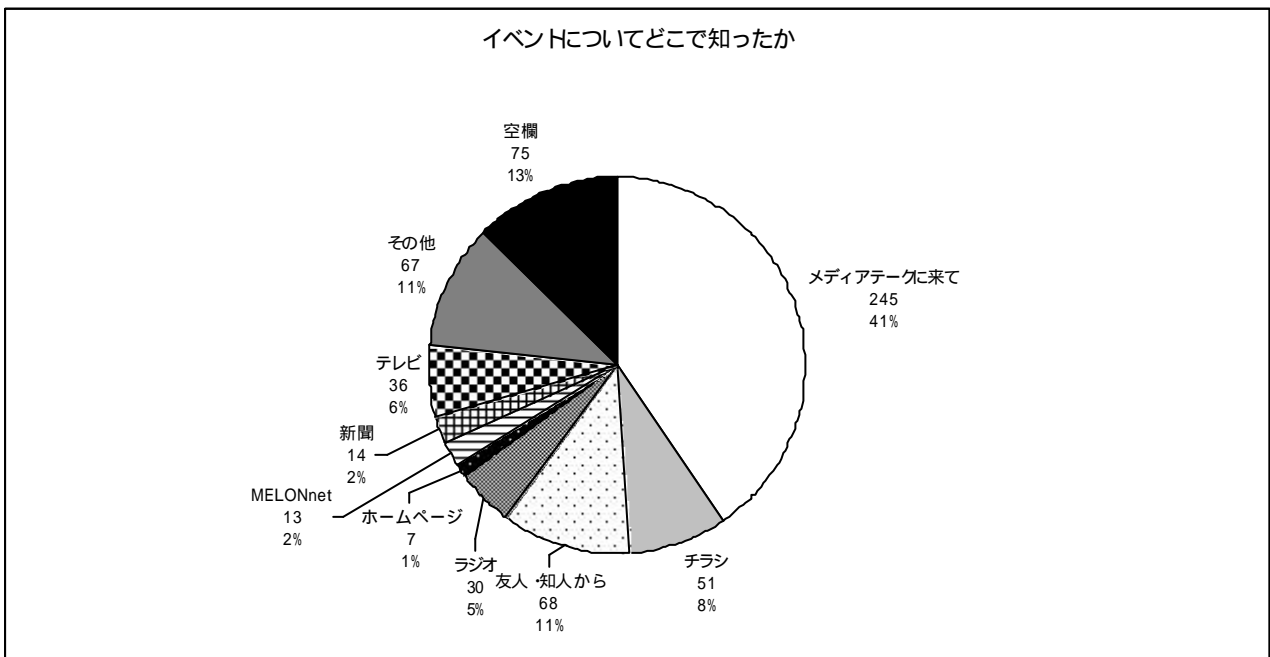
Q2.本日はどちらからいらっしゃいましたか？

結果：以下の表の通り。



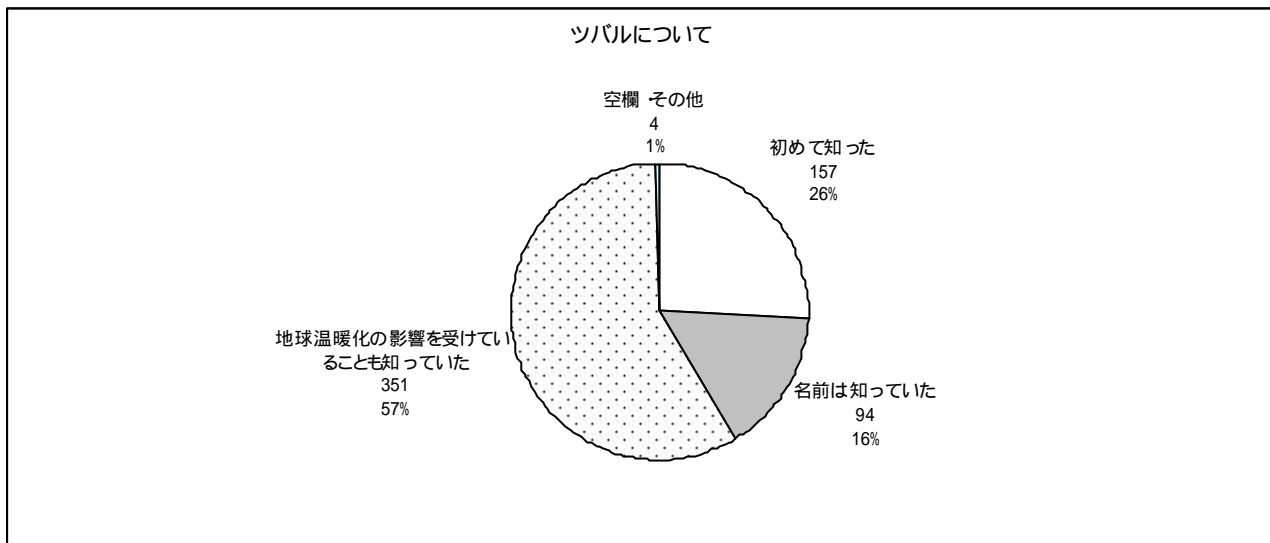
Q3.本日のイベントをどこで知りましたか？

結果：以下の表の通り。



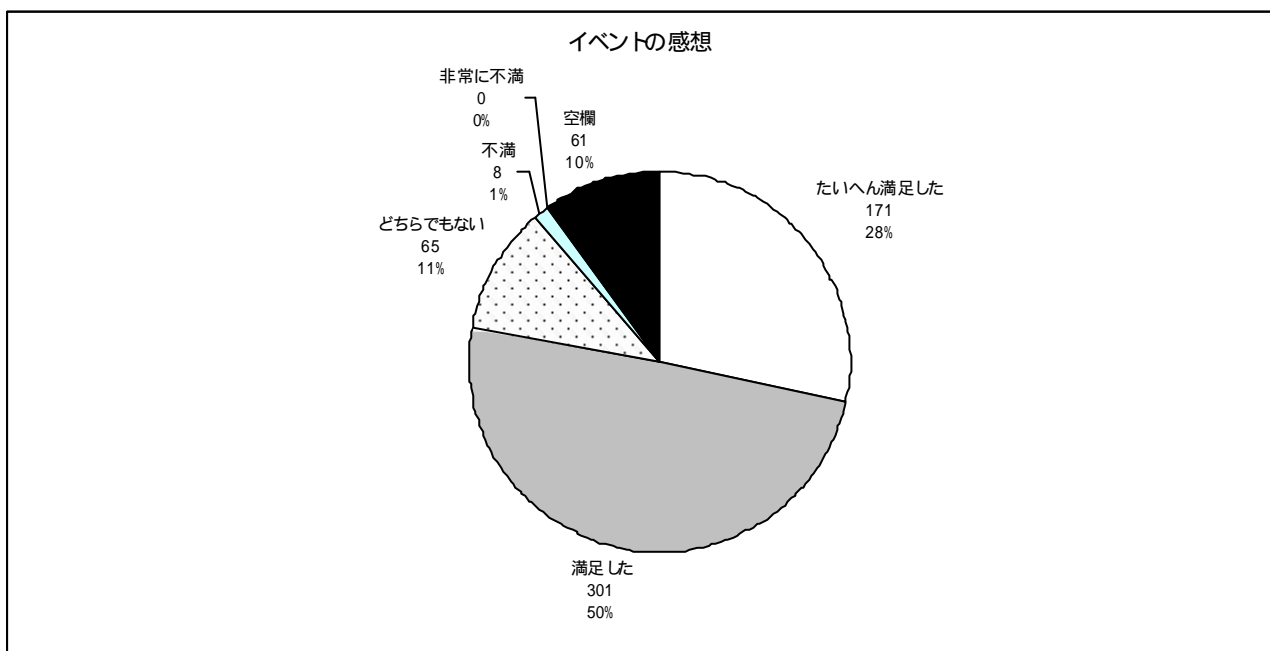
Q4.ツバルについてご存知でしたか？

結果：以下の表の通り。



Q5.今回のイベントについての感想とその理由をお答えください。

結果：以下の表の通り。



理由（誤字・脱字は事務局修正。その他は原文のまま）

<大変満足した>

- ・ 問題・課題を分かりやすく訴えている。
- ・ 写真が大変キレイだった。エコグッズの紹介やクイズ形式のコーナーもあり、楽しかった。ツバルについてたくさんのが分かった。
- ・ 写真だけでなく音、動画など自分なりに考えさせられました。
- ・ 若い世代が意識を高めて写真や映像の世界とタイアップする事で、熱意が伝わりました

- ・ 今回の企画、たいへん良かったです
- ・ 多くの人に事実を伝える上で“見える化”はとても有効。百聞は一見にしかず。この写真展を見れば多くの方が気づいてくれたはず。
- ・ たまたま入ったのですが、胸を打たれました。
- ・ 写真一枚一枚からたくさんのメッセージを感じたため
- ・ こんなにきれいな島、国が人の生活の便利さによる温暖化が原因でなくなってしまうことがショックで、このきれいな国を守るために私自身の生活を見直そうと思いました。
- ・ CO2 を日本人は使いすぎていることを実感しました。ツバルの人々の暮らしを、私たちのわがままでうばってはいけないと改めて思いました。
- ・ ボランティアの方が一生懸命で良かった。
- ・ 今まで知らなかった国が私たち先進国のせいで困っている状況を知り、今までエコとかんたんに思っていたがもっと深く考えることだと気づけた
- ・ こういった地球環境の現実を見せられると、ふだんの生活も考えなければと思った。
- ・ 壮大な自然とそこに住む人々、それを破壊しかねない地球温暖化の問題をもっと真剣に受けとめ、対策を実践していかなばいけないと感じた。
- ・ ツバルの良さが見出せた反面、リアルな現状をつきつけられた気がした。報道やドキュメンタリーで知ってはいたが、住民1人1人の声は非常に重みがあった。またCO2排出量など知っていそうで意外と知らなかった部分が多く、このようなイベントだけでなく、普段から知ることが可能な世の中になったらいいなと思った。
- ・ 先進国のCO2排出でこのような海面上昇などになり住む場所を失うことはとても悲しく残念です
- ・ 自然の大事さと便利な生活になれてしまっている事が地球をこわしている。
- ・ 本でしか知らなかったツバルの別の顔も知ることができました。島の人々の言葉、(気持ち)が悲しいほどに伝わってきました。
- ・ ここ数年仙台でも気温が上昇しており、冬らしい冬が昔に比べるとなくなってきた。寒いよりはあたたかい方がいいが、温暖化の影響で危機に面しているツバルを見ると甘い考えだと思った。子供達の歌声がせつない。
- ・ 自分たちの責任で、国がなくなろうとしているなんて初めて知った。“先進国のみなさん、私たちがここに生きていることを忘れないで”心に残りました。
- ・ こんなにも美しい国がなくなりつつあるのは悲しい。島がなくなるとは伝統や文化もなくなってしまうことだと知りました。
- ・ 太平洋の中にこんなきれいな国があると思わなかった。そして、環境問題で(私達のせいで)なくなる可能性があるのは人類にとって大きな警告だと思った。

<満足した>

- ・ ツバルのことを紹介すると同時に、温暖化のこともどちらにかたよるわけでもなく展示してくれていたから。
- ・ 写真によって具体的にどういった被害が現状としてあるのかがよくわかった。被害状況の簡単な数値的データなどがあれば、より実状を把握しやすかったと思う。
- ・ 移住すればよいというだけじゃ解決いかないことだと思う。故郷が消えるのは誰だってさみしい。どうにかしなくては、と思わせる写真だったと思う。

- ・ 美しい写真に感動し、ツバルの人々の生の声に胸が痛くなりました。もっと多くの写真が見たかったです。
- ・ ツバルの明るい生活も描かれていて、悲哀感だけを訴えられるよりも色々なモノが伝わってきた。
- ・ ニュースや話しではきいていたが、具体的に写真で塩害の様子などがわかってよかった
- ・ 地球温暖化を理解、周知など意義を拡大させるイベントと感じた。
- ・ 写真だけでなく、ツバルに関する講演会があればより理解が深まると思います。
- ・ 良い写真と学生さん達の親切な説明、頑張ってください
- ・ こんな美しい国が、地球温暖化で沈んでしまうの？それは大変な問題だ。
- ・ 写真だけ見ればすてきなリゾート地と思いきや、いろいろな問題を人々はとても身近にしているのが、とても伝わってきて、本気で環境改善に取り組まないといけないと強く思いました。
- ・ ツバルの人たちの笑顔を見て、この島を守らないといけないと思った。その為にも、これまで以上に CO2 削減につとめたいと思う。
- ・ 地球温暖化はさけて通れないと思うのですがこの問題に対する取り組みはごく最近のように思っているのですが、もっと以前から取り組むべきだったと思いました。
- ・ きれいな水、きれいな空、澄んだ瞳を大切にしたい。失ってはいけないものの大切さを訴えるイベントは、もっと多くてもよい。
- ・ 私たち日本人が知らなければならないことだと思います。このことについて、よく考え、行動していくべきだと感じました。
- ・ 自分達の生活を豊にする為、犠牲になっている人々がいる事を忘れてしまっていた。パネルの中で老人が「島がなくなるのなら、運命に従う」と話しているものがあつたが、身につまされる思いがした。今からでも Eco をはじめたい。
- ・ 美しい写真の裏の現実を、これらの写真を通して見つめなおすことができた。
- ・ ステキな島がしずんでしまうだなんて・・・私たちが意識することで出来ることをやっていきたいと思った。
- ・ ツバル内でもこの島を出たい人や沈むならそれが運命だという人や様々な人の気持ちがあり、でもそう思わせているのは私達先進国の人間なのだと悲しくなった。

< どちらでもない >

- ・ 現地の人達の切実な思いをかいまみれて身につまされた　ただ数が少なすぎるように思う
- ・ もっと切実な現場の写真があつた方がよい
- ・ 予備知識がなかったので、十分に主旨を理解できていない
- ・ ツバルがどこにあるか知らなかったので大きな地図が欲しかった
- ・ 具体的に何をすべきかメッセージが足りないのでは・・・

< 不満 >

- ・ 地球温暖化と海面上昇の関連がいまいちわからなかった。
- ・ エコについての説明が不十分であった。色による体感温度が数値化されていればもっとわかりやすいと思う。
- ・ ツバルは温暖化の象徴かもしれないけど、深刻な影響の他の地域のことも。

Q6.あなたが今後新たに始めたいと思う行動は、次のうちどれですか？（複数回答可）

結果：以下の表の通り。

【算出方法】()内は出典。

- ・タンブラーを持ち歩く
6g-CO₂/日×365日=2.19kg-CO₂/年（環境省チームマイナス6%ホームページ）
- ・使っていない時は電気を消す
21g-CO₂/日×365日=7.6kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・暖房の設定温度は20度にする
96g-CO₂/日×120日（冬季）=11.52kg-CO₂/年（環境省チームマイナス6%ホームページ）
- ・電化製品を使わないときは主電源を切る
63g-CO₂/日×365日=23.0kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・レジ袋はもらわず、エコバッグを使う
56g-CO₂/日×週3回×1年 8.8kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・テレビを見ていない時は消す
34g-CO₂/日×365日=12.4kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・誰もいない部屋の電気を消す
21g-CO₂/日×365日=7.6kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・なるべく国産・地元産の食物を買う
47g-CO₂/日×週3回×1年 7.4kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）
- ・シャンプーやハンドソープは使いすぎない
72g-CO₂/日×365日=26.3kg-CO₂/年（川口環境市民会議ホームページ）

	タンブラーを持ち歩く	使っていない時は電気を消す	暖房の設定温度は20度にする	電化製品を使わないときは主電源を切る	レジ袋はもらわず、エコバッグを使う
人数	124	349	172	219	332
割合(606名中)	20.5%	57.6%	28.4%	36.1%	54.8%
削減量 (kg-CO ₂)	271.56	2675.09	1981.44	5035.91	2908.32
	テレビを見ていない時は消す	誰もいない部屋の電気を消す	なるべく国産・地元産の食物を買う	シャンプーやハンドソープは使いすぎない	合計
人数	298	322	220	189	
割合(606名中)	49.2%	53.1%	36.3%	31.2%	
削減量 (kg-CO ₂)	3698.18	2468.13	1617.47	4966.92	

その他：

森林保護、生ゴミで肥料作り、なるべく公共機関を使う、不要なものは買わない、観葉植物を置く、水を大切に使う、月に一度はキャンドルナイト、暖色のインテリアに模様替えする、衣食住をシンプルにする、マイ箸を使う、太陽光発電、プラスチックゴミの出ない店で買い物する、食器を洗う時なるべく汚れを取り除いて少ない水で洗う

Q7.その他、ご意見やご感想をご自由にお書きください。(誤字・脱字修正、コメントの分類は事務局。その他は原文のまま)

<ツバルという国に関して>

- ・ ツバルのきれいな海やゆたかな暮らしを守るためにも、CO2削減を目指したいと思います。
- ・ 美しい島です。訪れてみたい!
- ・ ツバルが無くなるといいなあ。
- ・ ツバルの国を守れなくして、地球の未来はないと思った。
- ・ きれいな写真(ツバル)から温暖化問題を感じました。
- ・ とてもきれいな写真だったので、本当に失うことになったら悲しいです。地球人として。
- ・ 地球温暖化を真剣に意識していきたいと思った。美しい自然を残せる様・・・

<ツバルの人々に関して>

- ・ 我々の暮らしとあまりに違う人々が(文明に頼りすぎ)最大の被害者になる現実は、あまりにも問題だと思う
- ・ CO2をほとんど排出していないツバルの人たちが、CO2の影響で多大な被害を受けているという事実を改めて実感した。
- ・ ツバルの子どもたちの故郷を奪う権利は誰にもない。ツバルを救うことは、地球の未来を救うことにつながる。
- ・ 温暖化による海面上昇でこんなにも有名になってしまったツバル...こんな日が来るとは、ツバルの人々も思っていなかったはず。美しい自然とみごとに共存してきたツバルの人々が、まっ先に影響をうけてしまうのがたまりません。
- ・ 空と夕焼けの写真がとくに感動しましたが、飾りのない子どもたちの笑顔を見るとこっちを自然に笑顔にしてくれた。

<ツバルと地球温暖化に関して>

- ・ 美しい景色と島に起こっている問題のギャップの大きさを感じて驚きました。
- ・ 他の国の人々を不幸にするほどゴウマンな人間になりたくない!!
- ・ テプカ島の侵食、これ以上ふやしてはならない。

<地球温暖化に関して>

- ・ 地球温暖化の考え方がもう少しきちんと考えなくてはと思った。
- ・ 地球温暖化によりだんだんと水没して行く所が増えて行くこわさを知りました。

<自分及び日本と地球温暖化の関係>

- ・ CO2排出削減の行動は日常の我々の身近に沢山あると思う
- ・ 自分たちの便利さだけを優先させてはいけないと感じました。
- ・ 先進国の我々が動き出さなければいけないと感じた。
- ・ 自然とともにある私達が沢山考えなければならぬことがありますね。

<これまでのライフスタイルに関して>

- ・ 自分がいかに普段環境について考えていないか反省しました。
- ・ 暮らしがあたりまえでない事を考えたいと思った。
- ・ なんとなくつけていた電気、テレビ・・・反省した。意識的に生活しようと思った。写真展の中の人たちの笑顔は素敵。
- ・ 「エコ」と言われているがあまり守ってなかったことが多いなと感じました。ダメですね。ちょっとがんばろうと思います。
- ・ 今までずいぶんむだ使いをしていたと反省した。

<これからのライフスタイルについて>

- ・ ツバルのきれいな海やゆたかな暮らしを守るためにも、CO2 削減を目指したいと思います。
- ・ できることから、確実に実行したい。
- ・ エコバッグやマイ箸、クールビズ&ウォームビズ、自転車等できることに取り組んでいます。これを今度は周りの人に広めたい。
- ・ 自分も今度からは、エコバッグを使ったり、タンブラーなどを持ち歩かないといけないと思いました。

<企画に関して>

- ・ すばらしい展示だ。みんなに見せてあげたい！
- ・ こうゆう取組はもっと行ってほしいです。
- ・ 情報の発進で良い取組みだと思います。これからも継続してください。
- ・ 世界・あるいは日本から見てツバルはどの位置にあるのか！入口に大きな地図で示すべき。
- ・ エコが叫ばれている時、とても素晴らしい企画展でした。ツバルを凡例とし、大きなキャンペーンの展開を望む。
- ・ これからもこういう機会にみんなに教えてこの運動がひろまる事希望します

<遠藤氏、スタッフ、ボランティアに関して>

- ・ 遠藤先生、これからも頑張ってください。ボランティアの皆様、ご苦労様です！！
- ・ どうすれば CO2 が削減できるかを詳しく説明してくれたので理解しやすかったです。
- ・ 啓もう活動は大変だと思いますが、これからも頑張ってください。

写真展 ツバヒに生きる1万人の人類～A Piece of the EARTH～」アンケート

ご来場いただき誠にありがとうございました。

今後の参考のため、アンケートにご協力をお願いします。

*当てはまるところに をつけてください。

Q1. あなたの年齢 性別を教えてください。

年齢 (10代以下 / 20代 / 30代 / 40代 / 50代 / 60代以上)

性別 (男性 / 女性)

Q2. 本日はどちらからいらっしゃいましたか？

◆ 仙台市内 (泉区 / 青葉区 / 宮城野区 / 若林区 / 太白区)

◆ 仙台市外 (_____ 市 町 村) 宮城県外 (_____ 都 道 府 県)

Q3. 本日のイベントをどこで知りましたか？

(チラシ (入手先: _____) / 友人 知人から / ラジオ / ホームページ
MELONnet / その他(_____))

Q4. ツバヒについてご存知でしたか？

(初めて知った / 名前は知っていた / 地球温暖化の影響を受けていることも知っていた)

Q5. 今回のイベントについての感想とその理由をお答えください。

(たいへん満足した / 満足した / どちらでもない / 不満 / 非常に不満)

(理由 _____)

Q6.あなたが今後新たに始めたいと思う行動は、次のうちどれですか？(いくつでも)

タンブラーを持ち歩く / 使っていない時は電気を消す / 暖房の設定温度は20にする

電化製品を使わない時は主電源を切る / レジ袋はもらわず、エコバッグを使う

テレビを見ていない時は消す / 誰もいない部屋の電気を消す / なるべく国産・地元産の食

物を買う / シャンプーやハンドソープは使いすぎない / その他 (_____)

Q7.その他、ご意見やご感想をご自由にお書きください。

(_____)

>>> (財)みやぎ 環境とくらしネットワークでは、定期的に環境イベント開催やボランティア募集の
情報をメールでお送りしております。ご希望の方は、メールアドレスをご記入ください。

パソコン / 携帯 _____

@ _____

ご協力ありがとうございました。

5. 事業 ストップ温暖化センターみやぎパンフレット作成

5-1. 配布先

送付先	1 件あたり(部)	件数(箇所)	合計(部)
小中高校	1	780	780
公民館・市民センター	10	263	2630
自治体	10	42	420
事務局設置	170	1	170
合計			4000

6. 事業 温暖化防止啓発コンサート(Date fm との共催)

6-1. 実施概要

日時：12/1（火）19:00～21:00

場所：ZEPP SENDAI

主催：Date fm

共催：ストップ温暖化センターみやぎ

内容：【ライブ】Rake

【ライブ】さかいゆう

【トーク】遠藤秀一氏（写真家、特定非営利活動法人 Tuvalu Overview 代表理事）

【ライブ】Orange pekoe、

会場ロビーにて遠藤氏写真展「ツバルから考える地球の未来」を行った。

来場者：約 500 名

CO₂ 排出削減見込み量：1,095kg-CO₂

タンブラー使用によるペットボトル使用削減（6g-CO₂/日×365日×500名。環境省チームマイナス6%ホームページより）

6-2. 総括

今回のイベントでは、ライブを目的に応募をした来場者がほとんどであったようだが、アンケートではツバルや遠藤氏についての記述が多く（回答者 92 名中 42 名がツバル及び写真展について記述）遠藤氏のトークと写真展での地球温暖化に対する啓発効果は非常に大きかったと思われる。むしろ、環境について普段あまり考えない層にアプローチできたという点において、その意義は大きかったと言える。

遠藤氏のトークでは、ツバルの現状や地球温暖化対策を一人一人が実践する必要があることを訴え、会場ではうなづきながら聞く参加者も多く見られた。また写真展も盛況で、写真をじっくりと眺めたり、ツバル人のメッセージを一つ一つ読んでいる人が多数いた。

上記のような来場者からの反響の大きさを Date fm は非常に好意的に受け止めており、これまでの関係を強化することができたと思う。

6-3. アンケート回答（遠藤氏のトーク及び写真展に関する記述のみ抜粋）:

- ・ 音楽だけでなく、写真展もあり楽しめました。
- ・ ツバルのお話がとても印象深く考えさせられました。
- ・ ツバルの写真展も素晴らしく、エコのモチベーションが上がりました！
- ・ ツバルの現状を知り、ショックを受けました。
- ・ 遠藤さんの大変貴重なお話もきけてよかったです。
- ・ いろいろと買わないことがエコなんですね。
- ・ ツバルの話聞きに来ました。遠藤さんのお話がかなり良かったです。
- ・ エコにもっと取り組もうと思いました。
- ・ 遠藤さんのペットボトルの話、身につまされる思いでした。行動を起こしてみようと思います。
- ・ これからペットボトルをなるべく控えたいと思います。
- ・ ツバルの子どもたちの笑顔がとても印象に残った。
- ・ 多くの方が地球の危機を感じる必要があると思います。
- ・ ツバルのこと、自分は全然知らなかったと思った。今回は時間が短くてあまり深くはわからなかったけれど、自分にできること、考えていきたい。ツバルにも行ってみたい。
- ・ 遠藤さんのお話を聞いて、やはり小学生の娘を連れてくれば良かったなと思いました。
- ・ 環境についてもトークや写真を見て知ることができたので、意識も変わりよかったです。
- ・ ペットボトルの話、よくわかりました。頑張ってみます！
- ・ 遠藤さんのお話を聞いているうちに涙が出てきました。



左：遠藤秀一氏
中央：遠藤氏トーク時の会場の様子
右：写真展の様子